

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年11月10日

【四半期会計期間】 第86期第2四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)

【会社名】 森尾電機株式会社

【英訳名】 MORIO DENKI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小 泉 泰 一

【本店の所在の場所】 東京都葛飾区立石四丁目34番1号

【電話番号】 (03)3691 3181(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 木 下 寛

【最寄りの連絡場所】 東京都葛飾区立石四丁目34番1号

【電話番号】 (03)3691 3181(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 木 下 寛

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第85期 第2四半期 連結累計期間	第86期 第2四半期 連結累計期間	第85期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	3,094,469	3,565,323	6,986,945
経常利益 (千円)	38,589	43,933	260,633
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	15,819	30,717	151,791
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	93,445	91,125	110,615
純資産額 (千円)	3,364,716	3,618,428	3,568,651
総資産額 (千円)	7,651,061	8,452,958	8,159,600
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	11.50	22.33	110.35
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	44.0	42.8	43.7
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	247,794	102,545	138,059
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	225,026	28,658	234,167
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	22,273	181,466	408
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	591,830	618,253	725,210

回次	第85期 第2四半期 連結会計期間	第86期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額( ) (円)	37.62	1.60

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 平成29年10月1日付で普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。第85期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策の効果等を受け、企業収益は改善し、個人消費も緩やかな回復基調にあります。一方、引続き地政学的リスクの高まりや米国の政策動向等による日本経済への影響が懸念され、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経営環境のもと、当社グループは積極的な受注活動を展開した結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は35億65百万円（前年同四半期比4億70百万円、15.2%増）となり、受注高は45億17百万円（前年同四半期比45百万円、1.0%減）となりました。

セグメント別業績は、次のとおりであります。

#### [ 電気機器製造販売事業 ]

電気機器製造販売事業の売上高は34億89百万円（前年同四半期比4億66百万円、15.4%増）となり、受注高は45億17百万円（前年同四半期比45百万円、1.0%減）となりました。

主力の鉄道関連事業につきましては、主に国内通勤近郊電車等の車両需要向けを中心に受注活動を展開した結果、売上高は28億38百万円（前年同四半期比5億21百万円、22.5%増）となり、受注高は30億28百万円（前年同四半期比4億84百万円、13.8%減）となりました。

自動車関連事業につきましては、各高速道路会社等に対し車載標識車を中心とする受注活動を展開した結果、売上高は6億9百万円（前年同四半期比53百万円、9.7%増）となり、受注高は14億31百万円（前年同四半期比4億32百万円、43.3%増）となりました。

船舶等関連事業につきましては、防衛省関連等への出荷を中心に受注活動を展開しましたが、売上高は42百万円（前年同四半期比1億8百万円、72.0%減）となり、受注高は57百万円（前年同四半期比6百万円、12.0%増）となりました。

#### [ 不動産関連事業 ]

不動産関連事業につきましては、各賃貸マンションが堅調な売上を維持しており、売上高は75百万円（前年同四半期比4百万円、5.8%増）となりました。

利益につきましては厳しい価格競争の中、製造コスト及び固定費の削減に努めた結果、当第2四半期連結累計期間の営業利益は46百万円（前年同四半期比1百万円、2.8%減）、経常利益は43百万円（前年同四半期比5百万円、13.8%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は30百万円（前年同四半期比14百万円、94.2%増）となりました。

## (2) 財政状態の分析

### 資産

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ2億36百万円増加し、50億3百万円となりました。これは、主として現金及び預金が1億6百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が54百万円、たな卸資産が3億3百万円増加したこと等によります。

当第2四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べ57百万円増加し、34億49百万円となりました。これは主として投資有価証券が89百万円増加したこと等によります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における総資産は、84億52百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億93百万円の増加となりました。

### 負債

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ46百万円増加し、33億49百万円となりました。これは、主として短期借入金が3億13百万円、未払法人税等が71百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が4億31百万円増加したこと等によります。

当第2四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べ1億96百万円増加し、14億84百万円となりました。これは、主として長期借入金が82百万円減少したものの、その他の内リース債務が2億24百万円増加したこと等によります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、48億34百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億43百万円の増加となりました。

### 純資産

当第2四半期連結会計期間末における株主資本は、前連結会計年度末に比べ10百万円減少し、30億59百万円となりました。これは、主として利益剰余金が10百万円減少したこと等によります。

当第2四半期連結会計期間末におけるその他の包括利益累計額合計は、前連結会計年度末に比べ60百万円増加し、5億59百万円となりました。これは、主としてその他有価証券評価差額金が59百万円増加したこと等によります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、36億18百万円となり、前連結会計年度末に比べ49百万円の増加となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ1億6百万円減少し、6億18百万円となりました。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は1億2百万円（前年同四半期は2億47百万円の使用）となりました。

この主な要因は、収入については減価償却費1億18百万円、仕入債務の増加額3億76百万円であり、支出については売上債権の増加額53百万円、たな卸資産の増加額3億2百万円、法人税等の支払額73百万円等により、キャッシュ・フローが増加したことによります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は28百万円（前年同四半期は2億25百万円の使用）となりました。

この主な要因は、支出について有形固定資産の取得による支出22百万円等により、キャッシュ・フローが減少したことによります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は1億81百万円（前年同四半期は22百万円の使用）となりました。

この主な要因は、収入についてはセール・アンド・リースバックによる収入が2億95百万円、支出については短期借入金の減少額が3億5百万円、長期借入金の返済による支出が90百万円、配当金の支払額が41百万円等により、キャッシュ・フローが減少したことによります。

#### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりです。

##### 1) 基本方針の内容

当社取締役会は、上場会社として当社株式の自由な売買を認める以上、特定の者の大規模な買付行為に応じて当社株式の売却を行うか否かは、最終的には当社株式を保有する当社株主の皆様の判断に委ねられるべきものであると考えます。

しかし、鉄道車両や自動車・船舶関係の電装品メーカーである当社の経営においては、当社の有形無形の経営資源、将来を見据えた施策の潜在的効果、当社に与えられた社会的な使命、それら当社の企業価値ひいては株主共同の利益を構成する要素等への理解が不可欠です。これらを継続的に維持、向上させていくためには、当社の企業価値の源泉である、電装品や装置の開発設計の技術者集団として、豊富な経験とノウハウに裏付けされた技術力、設計から販売まで、顧客のニーズを確実に捉えた製品づくりを可能とした一貫生産体制、安全性を重視した製品を提供するための徹底した品質管理体制、長年の間に築き上げた顧客との強固な信頼関係、地球環境保全への貢献を意識した企業精神等が必要不可欠であると考えております。当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者によりこうした中長期的視点に立った施策が実行されない場合、当社の企業価値ひいては株主共同の利益や当社に関わる全てのステークホルダーの利益は毀損されることになる可能性があります。

当社は、当社株式の適正な価値を株主及び投資家の皆様にご理解いただくようIR活動に努めておりますものの、突然大規模な買付行為がなされたときに、買付者の提示する当社株式の取得対価が妥当かどうか等買付者による大規模な買付行為の是非を株主の皆様が短期間のうちに適切に判断するためには、買付者及び当社取締役会の双方から適切かつ十分な情報が提供されることが不可欠です。さらに、当社株式の継続保有をお考えの株主の皆様にとっても、かかる買付行為が当社に与える影響や、買付者が考える当社の経営に参画したときの経営方針、事業計画の内容、当該買付行為に対する当社取締役会の意見等の情報は、当社株式の継続保有を検討するうえで重要な判断材料となると考えます。

以上を考慮した結果、当社としましては、大規模な買付行為を行う買付者において、株主の皆様判断のために、当社が設定し事前に開示する一定のルール(以下「大規模買付ルール」といいます。)に従って、買付行為に関する必要かつ十分な情報を当社取締役会に事前に提供し、当社取締役会のための一定の評価期間が経過し、かつ当社取締役会又は株主総会が対抗措置発動の可否について決議を行った後のみ当該買付行為を開始する必要があると考えております。

また、大規模な買付行為の中には、当該買付行為が企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと認められるものもないとは言えません。当社は、かかる大規模な買付行為に対して、当社取締役会が2)に記載する本対応方針に従って適切と考える方策をとることが、企業価値ひいては株主共同の利益を守るために必要であると考えております。

##### 2) 基本方針実現のための取り組み

当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の会社支配に関する基本方針の実現に資する特別な取り組み

当社は主に受注生産により事業を行っているため、主力の鉄道関連事業では国内・海外車両の代替需要及び新規需要の影響を大きく受けます。従って、経済環境による収益への影響を抑えるために、一貫生産体制の推進及び顧客のニーズを的確に捉えた製品供給を通じて、生産性の向上と収益体質の強化に取り組んでおります。具体的には、作業効率の改善と消費電力の削減、また、振動や騒音の低減による環境面に配慮した「タレットパンチプレス」や「レーザー加工機」の新機種導入を積極的に行うなど、竜ヶ崎事業所工場棟の老朽化した機械設備を順次計画的に最新鋭のものに更新します。さらに照明のLED化や社内空調設備の更新等により作業環境の大幅な改善と地球環境保全への貢献を目指してまいります。

また、国内の鉄道車両産業が成熟化するなかで、海外鉄道車両事業への関わりがますます大きくなってまいりますので、引き続き海外鉄道車両案件への対応力の一層の向上に取り組んでまいります。その一環として、平成25年（2013年）8月に開設した米国現地法人では、平成27年（2015年）3月には現地生産品の納入が始まりました。さらに、平成28年（2016年）7月には事務所と倉庫を集約することにより、業務の効率化を図りました。

平成24年（2012年）3月には創業100周年記念事業の一環として、旧本社の再開発計画に着手しました。本社社屋は平成25年（2013年）12月に完成し、本社社屋を本社事務所と賃貸住宅の共用建物として建替えました。このことにより、不動産賃貸事業の強化と収益の安定化を図ることができました。

さらに取締役会が適正かつ効率的に業務執行機能を発揮できるよう、取締役の責任を明確化し権限を強化することで事業運営上重要な事項について常勤役員による迅速な意思決定ができる体制を採用しており、取締役会ではこのような業務執行について、社外取締役及び社外監査役を中心に多面的にチェックする体制が図られている等、コーポレート・ガバナンスの強化充実に向けて取り組んでおります。

会社支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組み

当社は、平成21年5月8日付取締役会決議及び同年6月26日付定時株主総会決議に基づき、「当社株券等の大規模買付行為への対応方針」（以下「本対応方針」といいます。）を導入し、平成27年5月8日開催の当社取締役会において、同年6月26日開催の定時株主総会における株主の皆様の承認を条件として本対応方針を継続することを決議いたしました。

本対応方針は、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為（市場取引、公開買付け等の具体的な買付方法の如何を問いませんが、あらかじめ当社取締役会が同意した者による買付行為を除きます。）、又は結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社の他の株主との合意等（以下、かかる買付行為又は合意等を「大規模買付行為」といい、かかる買付行為又は合意等を行う者を「大規模買付者」といいます。）が行われる場合に、大規模買付行為に応じて当社株式を売却するか否かを株主の皆様が判断するために必要な情報を確保したり、株主の皆様のために交渉を行うこと等を可能とするものです。

また、上記基本方針に反し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なう大規模買付行為を新株予約権の発行等を利用することにより阻止し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させることを目的としております。

当社の株券等について大規模買付行為が行われる場合、大規模買付者には、当社代表取締役宛に大規模買付者及び大規模買付行為の概要並びに当社が定める大規模買付ルールに従う旨が記載された意向表明書を提出することを求めます。大規模買付者には、当社取締役会が当該意向表明書受領後10営業日以内に交付する必要情報リストに基づき、株主の皆様の判断並びに当社取締役会及び独立委員会としての意見形成のために必要かつ十分な情報（以下「本必要情報」といいます。）の提供を求めます。

当社取締役会は、大規模買付行為の評価等の難易度に応じ、大規模買付者が当社取締役会に対し本必要情報の提供を完了した後、60日間（対価を現金（円貨）のみとする公開買付けによる当社全株式の買付けの場合）又は90日間（その他の大規模買付行為の場合）（最大30日間の延長があり得ます。）を当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間とし、当該期間内に、独立委員会に諮問し、また、必要に応じて外部専門家等の助言を受けながら、大規模買付者から提供された本必要情報を十分に評価・検討し、独立委員会からの勧告を最大限尊重したうえで、当社取締役会としての意見をとりまとめて公表するとともに、必要に応じ、大規模買付者との間で大規模買付行為に関する条件改善について交渉し、当社取締役会としての代替案を提示することもあります。

当社取締役会は、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守したか否か、大規模買付行為が企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうか否か及び対抗措置をとるか否か等の判断については、その客観性、公正さ及び合理性を担保するため、当社取締役会から独立した組織として独立委員会を設置したうえで、取締役会はこれに必ず諮問することとし、独立委員会の勧告を最大限尊重し、対抗措置の発動又は不発動もしくは株主総会招集の決議その他必要な決議を行うものとします。対抗措置として、新株予約権の発行を実施する場合には、当該新株予約権には、大規模買付者等による権利行使が認められないという行使条件、及び当社が大規模買付者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得することができる旨の取得条項を付すことがあるものとし、新株予約権者は、当社取締役会が定めた1円以上の額を払い込むことにより新株予約権を行使し、当社普通株式を取得することができるものとします。当社取締役会は、上記決議を行った場合は、適時適切に情報開示を行います。

本対応方針の有効期限は、平成27年6月26日開催の定時株主総会においてその継続が承認されたことから、当該定時株主総会の日から3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとします。ただし、本対応方針の有効期間中であっても、当社の株主総会において本対応方針を廃止する旨の決議が行われた場合、又は当社取締役会が独立委員会の勧告を最大限尊重したうえで本対応方針を廃止する旨の決議を行った場合には、当該決議の時点をもって本対応方針は廃止されるものとします。また、本対応方針の有効期間中であっても、企業価値ひいては株主共同の利益の向上の観点から、関係法令の整備や、金融商品取引所が定める上場制度の整備等を踏まえ随時見直しを行い、独立委員会の勧告を最大限尊重して、本対応方針の変更を行うこともあります。

なお、本対応方針の詳細については、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス <http://www.morio.co.jp/>）に掲載する平成27年5月8日付プレスリリースをご覧ください。

### 3) 具体的取り組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

2) に記載した当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の会社支配に関する基本方針の実現に資する特別な取り組みは、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるための具体的方策であり、当社の基本方針に沿うものです。

また、2) に記載した本対応方針も、企業価値ひいては株主共同の利益を向上させる目的をもって継続されたものであり、当社の基本方針に沿うものです。特に、本対応方針は、当社取締役会から独立した組織として独立委員会を設置し、対抗措置の発動・不発動の判断の際には取締役会はこれに必ず諮問することとなっていること、独立委員会は当社の費用で独立した第三者である専門家等を利用することができることとされていること、必要に応じて新株予約権の無償割当ての実施につき株主総会に諮ることとなっていること、本対応方針の有効期間は3年であり、その継続については株主の皆様のご承認をいただくこととなっていること等その内容において公正性・客観性が担保される工夫がなされている点において、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

### (5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は11百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。



### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	57,000,000
計	57,000,000

(注) 平成29年6月29日開催の第85回定時株主総会の決議により、平成29年10月1日付で当社普通株式10株を1株とする株式併合に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は51,300,000株減少し、5,700,000株となっております。

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,250,000	1,425,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は当第2四半期会計期間末では1,000株、提出日現在では100株であります。
計	14,250,000	1,425,000		

(注) 1. 平成29年6月29日開催の第85回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で当社普通株式10株を1株に併合いたしました。これにより、発行済株式総数は12,825,000株減少し、1,425,000株となっております。

2. 平成29年6月29日開催の第85回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年9月30日		14,250,000		1,048,500		897,272

(注) 平成29年10月1日をもって10株を1株に株式併合し、これに伴い発行済株式総数が12,825,000株減少しております。

(6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
有限会社森尾商会	神奈川県川崎市麻生区上麻生 2 - 19 - 10	1,170	8.21
川崎重工業株式会社	東京都港区海岸 1 - 14 - 5	895	6.29
日本車輛製造株式会社	愛知県名古屋市熱田区三本松町 1 - 1	758	5.32
株式会社東京都民銀行	東京都港区六本木 2 - 3 - 11	657	4.61
森尾電機さつき会	東京都葛飾区立石 4 - 34 - 1 森尾電機(株)内	650	4.57
セントラル警備保障株式会社	東京都新宿区西新宿 2 - 4 - 1 新宿NSビル	650	4.56
中西電機工業株式会社	兵庫県明石市大久保町松陰字石ヶ谷1127	518	3.64
森尾電機自社株投資会	東京都葛飾区立石 4 - 34 - 1	461	3.24
株式会社金子工務店	東京都葛飾区立石 6 - 14 - 10	331	2.32
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台 3 - 9	308	2.16
計		6,400	44.91

(注) 上記のほか当社所有の自己株式494千株(3.47%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 494,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,712,000	13,712	
単元未満株式	普通株式 44,000		
発行済株式総数	14,250,000		
総株主の議決権		13,712	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。

また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式872株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 森尾電機株式会社	東京都葛飾区 立石4-34-1	494,000		494,000	3.4
計		494,000		494,000	3.4

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当第2四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	965,210	858,253
受取手形及び売掛金	2,080,311	2,134,389
商品及び製品	181,731	109,038
仕掛品	902,274	1,451,650
原材料及び貯蔵品	535,523	362,313
繰延税金資産	55,954	50,566
その他	46,744	37,741
流動資産合計	4,767,749	5,003,952
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,871,046	2,874,929
減価償却累計額	1,258,725	1,306,375
建物及び構築物(純額)	1,612,321	1,568,554
土地	55,297	55,297
その他	564,643	620,314
減価償却累計額	406,735	418,111
その他(純額)	157,907	202,203
有形固定資産合計	1,825,526	1,826,054
無形固定資産	370,267	329,716
投資その他の資産		
投資有価証券	1,138,123	1,227,432
その他	57,932	65,802
投資その他の資産合計	1,196,056	1,293,235
固定資産合計	3,391,850	3,449,006
資産合計	8,159,600	8,452,958

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,403,172	1,835,098
短期借入金	1,453,754	1,140,424
未払法人税等	83,494	11,715
賞与引当金	149,000	149,000
役員賞与引当金	18,000	-
その他	195,834	213,737
流動負債合計	3,303,255	3,349,975
固定負債		
長期借入金	982,540	900,058
繰延税金負債	200,552	230,714
その他	104,601	353,782
固定負債合計	1,287,693	1,484,555
負債合計	4,590,948	4,834,530
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,048,500	1,048,500
資本剰余金	897,272	897,272
利益剰余金	1,194,432	1,183,883
自己株式	70,284	70,366
株主資本合計	3,069,921	3,059,290
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	489,601	549,040
為替換算調整勘定	9,128	10,097
その他の包括利益累計額合計	498,729	559,138
純資産合計	3,568,651	3,618,428
負債純資産合計	8,159,600	8,452,958

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	3,094,469	3,565,323
売上原価	2,581,858	3,023,419
売上総利益	512,611	541,903
販売費及び一般管理費	1 464,885	1 495,508
営業利益	47,725	46,394
営業外収益		
受取利息	67	24
受取配当金	8,145	7,252
受取補償金	-	800
雑収入	4,668	5,121
営業外収益合計	12,881	13,197
営業外費用		
支払利息	16,089	14,276
為替差損	5,928	1,303
雑損失	-	80
営業外費用合計	22,017	15,659
経常利益	38,589	43,933
特別利益		
固定資産売却益	-	3,486
特別利益合計	-	3,486
特別損失		
固定資産除却損	0	7,185
特別損失合計	0	7,185
税金等調整前四半期純利益	38,589	40,233
法人税、住民税及び事業税	17,603	4,008
法人税等調整額	5,166	5,508
法人税等合計	22,769	9,516
四半期純利益	15,819	30,717
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	15,819	30,717

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	15,819	30,717
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	94,786	59,439
為替換算調整勘定	14,479	968
その他の包括利益合計	109,265	60,408
四半期包括利益	93,445	91,125
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	93,445	91,125
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-



(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	38,589	40,233
減価償却費	95,582	118,649
受取利息及び受取配当金	8,213	7,276
支払利息	16,089	14,276
売上債権の増減額(は増加)	184,793	53,438
たな卸資産の増減額(は増加)	168,378	302,847
仕入債務の増減額(は減少)	100,892	376,626
役員賞与引当金の増減額(は減少)	10,000	18,000
固定資産除売却損益(は益)	0	3,699
その他の営業外損益(は益)	195	275
未収消費税等の増減額(は増加)	4,216	8,537
未払消費税等の増減額(は減少)	64,587	-
その他の流動資産の増減額(は増加)	5,315	325
その他の流動負債の増減額(は減少)	39,285	2,943
その他	6,969	1,333
小計	137,660	184,137
利息及び配当金の受取額	8,213	7,276
利息の支払額	18,208	15,542
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	100,139	73,325
営業活動によるキャッシュ・フロー	247,794	102,545
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	240,000	240,000
定期預金の払戻による収入	240,000	240,000
有形固定資産の取得による支出	42,575	22,682
有形固定資産の売却による収入	-	5,249
無形固定資産の取得による支出	191,215	3,267
投資その他の資産の増減額(は増加)	8,764	7,958
投資活動によるキャッシュ・フロー	225,026	28,658
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	137,240	305,645
長期借入金の返済による支出	92,544	90,797
リース債務の返済による支出	25,929	39,553
セール・アンド・リースバックによる収入	-	295,629
自己株式の取得による支出	14	82
配当金の支払額	41,025	41,018
財務活動によるキャッシュ・フロー	22,273	181,466
現金及び現金同等物に係る換算差額	20,208	622
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	515,303	106,956
現金及び現金同等物の期首残高	1,107,133	725,210
現金及び現金同等物の四半期末残高	591,830	618,253

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
受取手形	千円	122,496千円
支払手形	千円	131,849千円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
給料手当	154,486千円	160,153千円
賞与引当金繰入額	50,880千円	54,581千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
現金及び預金	831,830千円	858,253千円
預入期間が3か月を超える定期預金	240,000千円	240,000千円
現金及び現金同等物	591,830千円	618,253千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月25日 取締役会	普通株式	41,268	3	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月10日 取締役会	普通株式	41,266	3	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	電気機器 製造販売事業	不動産 関連事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高					
外部顧客への売上高	3,023,178	71,290	3,094,469		3,094,469
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	3,023,178	71,290	3,094,469		3,094,469
セグメント利益	79,477	35,662	115,140	67,415	47,725

(注) 1. セグメント利益の調整額 67,415千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 67,415千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	電気機器 製造販売事業	不動産 関連事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高					
外部顧客への売上高	3,489,892	75,430	3,565,323		3,565,323
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	3,489,892	75,430	3,565,323		3,565,323
セグメント利益	74,494	41,574	116,068	69,673	46,394

(注) 1. セグメント利益の調整額 69,673千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 69,673千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	11円50銭	22円33銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	15,819	30,717
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	15,819	30,717
普通株式の期中平均株式数(千株)	1,375	1,375

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

当社は、平成29年5月10日開催の取締役会において、平成29年6月29日開催の第85回定時株主総会に株式併合及び単元株式数の変更に関する議案を付議することを決議し、同株主総会において承認され、平成29年10月1日付でその効力が発生しております。

1. 株式併合の目的

全国の証券取引所では、売買単位を100株に統一するための取組みを推進しております。それを踏まえ、当社普通株式の売買単位である単元株式数を1,000株から100株に変更することとし、併せて、証券取引所が望ましいとしている投資単位の金額水準(5万円以上50万円未満)とすることを目的として、株式併合を実施しております。

2. 株式併合の割合及び時期

平成29年10月1日付をもって平成29年9月30日の株主名簿に記録された株主の所有株式数を10株につき1株の割合で併合する。

3. 株式併合により減少する株式数

株式併合前の発行済株式総数(平成29年9月30日現在)	14,250,000株
株式併合により減少する株式数	12,825,000株
株式併合後の発行済株式総数	1,425,000株

4. 1株当たり情報に及ぼす影響

当該株式併合が与える影響は、(1株当たり情報)に反映されております。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月2日

森尾電機株式会社  
取締役会 御中

東 陽 監 査 法 人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 北 島 緑 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 清 水 谷 修 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている森尾電機株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、森尾電機株式会社及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。